

日本・台湾の学校つなぐ

大牟田RC寄稿

ICT活用 海洋教育交流を推進

大牟田ロータリークラブ(RC)は、創立70周年記念事業「宝の海プロジェクト」と題して、大牟田の海洋教育推進校に支援をしてきた。この事業では同じく海洋教育に注力している佐賀県玄海町の玄海みらい学園(小中一貫教育)も参加し、ICTによる海洋教育実践交流会の歩みを進めてきた。

今年1月31日には玄海町海洋教育推進協議会の主管で「令和6年度海洋教育玄海子どもサミット」が玄海町民会館文化ホールにて開催された。この取り組みは、笹

川平和財団の「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の支援を受けたもので、海はさまざまな学びの要素を包含した魅力ある学習題材であり、子どもたちが海にもっと親しみ、理解を深め、自分たちの力で海を守っていく、そのような新しい学びを日本中の学校に広げたいとの理念から発足したプログラムとなっている。

各校からは海を知り、親しみ、未来へ保全する取り組みが発表され、大牟田市みなと小学校からは「有明海と生きるために行動しよう」と題する「自助・共助」と題して2020年7月の豪雨水害から地球環境を考えた6年生の取り組みが

ライオン参加、そして過去に同プロジェクトの支援を受けた大牟田市も招待を受け今回、みなと小学校が参加した。また、当RCと友好関係を締結している101RCの協力の下、台湾の鼻頭小学校もオンラインにて参加した。

大牟田

「未来へ向けてのまちづくり」をテーマに第52回大牟田市校区コミュニティ研究大会が15日、大牟田文化会館で開かれた。校区まち

発表された。近隣住民へのアンケートを実施し防災に対する備えや、自助・共助の観点から防災訓練と地域でのコミュニケーションを密にする重要性を発表した。また台湾鼻頭小学校では言葉の壁をAI翻訳の技術で乗り越え、池に生息する貴重

な在来動植物復元計画について発表を行った。海洋教育交流を通じて地域の子もたちと海外の学友と共通の海の課題に取り組むことで、郷土愛や地球市民としての視野を広げてもらいたい。(大牟田ロータリークラブ会長、富永宗嗣)

玄海町でサミット



多くの学校が参加したサミット

「未来へ向けてのまちづくり」をテーマに第52回大牟田市校区コミュニティ研究大会が15日、大牟田文化会館で開かれた。校区まちづくりの協賛として、大牟田文化会館で開かれた。校区まち

全国大会

年が明けて早くもひと月が過ぎ、暦の上では春となった。今年には去年のような大きな地震や飛行機事故のニュースもなく、穏やかに過ごせた1月だった。

そんな幸せな気分が1月、ゆつくりとご当地の情報に触れて目に留まったのは「全国大会」の文面であった。そもそも「全国大会」が開催される場所は、大都会とのイメージが強い。日本を知らずとも注目を集めることな

読者のひろば

有効求人倍率1.22

1年間で最も高い値

玉名公共職業安定所(中5人。産業別で村田紀所長)によると、管区内(荒尾市、玉名郡市)の2024年12月の有効求人倍率は前月を0.03ポイント上回る1.22倍で、4カ月連続で前の月から改善した。前

1.86倍